

母恋い

メディアと、村上春樹・東野圭吾にみる“母性”

われわれにとって「母」とはどんな存在だろうか。

「母なる大地」「母なる海」等、「母」に関連する言葉は多くある。

「おふくろの味」も馴染み深いですが、これらは一体何なのか。

日本社会に流布されている、母にまつわる文化の再解釈を試みた意欲的な考察です。

●家族の中での各人の役割が変容しつつある現代。

その現代を生きる日本人にとって〈母・母性・母なるもの〉はどのように形成されてきたのか。比較文学を専門とする著者が数々の文学作品や人気メディアを引き合いに出しながら、「母」や「母性」の本質やその歴史的経緯を探り、「日本的文化」に迫る意欲的な一冊です。

本書は大きく二部構成。第一部では、お弁当、家庭料理、おにぎり、ちゃぶ台などから「母性」を考察。第二部では、村上春樹と東野圭吾における「母」をその作品群を読み解きながら論じました。

村上作品からは彼の長編小説ほぼすべてから具体例を挙げ、東野作品からは『白夜行』『幻夜』をとりあげ、彼らの作品における共通項は、主人公たちが「過去に縛られている」とことと「母的なもの」に回帰しようとするのだと著者は分析します。



著者紹介

大野 雅子(おおの・まさこ)

帝京大学外国語学部教授。明治学院大学文学部、中央大学文学部非常勤講師。専門は比較文学、英ルネッサンス文学。1985年津田塾大学学芸学部英文学科卒業。1988年東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程修了。1991年同博士課程退学。2003年プリンストン大学比較文学科博士号取得。スペンサーの研究者として知られ、文学における洋の東西を問わない博学を基に斬新な論を数多く発表している。著書に『ノスタルジアとしての文学、イデオロギーとしての文化』（英宝社）、共著に『詩人の詩人 スペンサー』（九州大学出版会）、『伝統と変革 一七世紀英国の詩泉をさぐる』（中央大学出版部）など。

貴店印・帳合

ご注文数

母恋い

メディアと、村上春樹・東野圭吾にみる“母性”

大野 雅子/著

定価：本体1,800円(税別)

ISBN978-4-909417-72-5

発売日：2021年3月10日

四六判並製/312頁

ご担当

様

冊

PHPエディターズ・グループ

発行

PHPエディターズ・グループ

〒135-0061

東京都江東区豊洲5-6-52 11階

☎ 03-6204-2931

FAX 03-6204-2932

ご注文はJRCへ▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い
すべての取次への出荷が可能です。